

# 会報 第31号

2020年2月



一般社団法人赤煉瓦倶楽部半田  
会報  
発行人/理事長 馬場信雄  
〒475-0836 半田市青山5-2-14

TEL/FAX:0569-24-4324  
http://www.akarenga-handa.jp  
E-mail:redbrickhanda@yahoo.co.jp

## NEWS目次

- 01 半田運河キャナルナイトへ出店
- 02 作って学ぼう！半田赤レンガ建物
- 03 2019 特別展開催!!  
～盛田善平のすべてをたどる～
- 04 第3回赤レンガ塾  
～特別展の解説会・懇親会～

- 05 ほとり酒場へ出店!
- 06 本格ドイツフェスティバル開催!!

### 今後の事業計画

- ① 新春合宿(2/15)
- ② 雛まつり  
(2/23・24、28・29、3/1)

## NEWS 01

### 第4回半田運河キャナルナイトへ出店

「半田運河キャナルナイト2019」が、昨年よりもエリアを拡大して8月9日(金)・10日(土)に蔵のまち運河エリアにて盛大に開催されました。

当日は、朝からお天気に恵まれ・・・(倒れそうなくらいの暑さ)設営準備に一苦労しましたが、グランピング調の休憩スペースを併設した素敵なカプトビール販売ブースが完成いたしました。今回も我々赤煉瓦倶楽部半田チームは、カプトビールや赤レンガ建物のPRを目的に参加し、夏の夕涼み的な感じもあいまってビールの消費も伸び、大忙しでオモテナシをさせていただきました。

ご来場の中には、カプトビールを初めて飲まれる方も多くみえるようで、馬場理事長の説明に翻弄されながらも半田とカプトビールの関係に心をめぐらせ美味しく飲んでいただけ、本当に良かったと思います。

古きよき半田らしさが今に残る運河沿いでの賑わ



いは、なんだか素敵ですね。また納屋橋からSAP隊がひかりの玉の回収のお手伝いに来てくれました。カプトビールつながりで、ますます名古屋納屋橋との交流が深まっています。(左右木記)

## NEWS 02

### 作って学ぼう！半田赤レンガ建物



当倶楽部の夏休み特別企画「作って学ぼう！半田赤レンガ建物」を8月18日(日)に開催しました。

半田工業高校建築科による「紙の模型」か、新開発の飛び出す「折り紙建築」のどちらかを選び、ペーパークラフトの半田赤レンガ建物を作ってみようというワークショップです。応募してくれたのは幼児から小4生までの子ども達と保護者の皆様。これほどの低学年を対象とする企画は初めてでしたが、半田工業高校の生徒と日本福祉大学の学生もサポーターとして加わり、楽しく熱気のあるイベントとなりました。完成した後は建物を実際に見学する特別ツアーを実施。今回参加してくれた子ども達の何人かが将来、我々の活動のバトンを繋いでくれることを願うばかりです。(中野記)



## ■NEWS 03

### 2019 特別展開催！！ ～盛田善平のすべてをたどる～

令和元年9月22日～10月17日の約1ヶ月間、2019年特別展を開催しました。テーマは「カトビールを創った人 盛田善平のすべてをたどる！」です。半田赤レンガ建物が2015年にリニューアルオープン



して以来、倶楽部が使命としている調査研究事業のメイン事業として特別展を開催していますが、本年は創業者の一人「盛田善平」を取り上げました。今回のテーマ



を決めてから関連書籍を集め、また関係先への取材活動

を頻繁に行ないました。結果、出生～敷嶋製パンを創業するまでの間に関して彼の活動を裏付ける資料が非常に少ないことがわかりました。幾つかの書籍等に彼のことが取り上



げられていますが、調査の結果それを裏付ける彼直筆の文章や資料がほとんど無く、筆者たちは関係者達への口述に基づく取材をもとに書かれたのではないかと推定しています。そして、一連の取材・調査活動の中でわかったことは、盛田善平の旺盛なパイオニア精神は勿論のこと、彼をそこまで育て上げた偉大な人がいたということでした。特別展の告知に際し、



多くの皆様に関心を持って頂くにはと考え、思い付いたキャッチフレーズが「ミツカ

ン×ソニー×Pasco=カトビール」でした。お陰様でこのフレーズに多くの方が反応して頂き、期間中に22,167名の方にご来場いただきました。ご来館いただきました皆様方に感謝申し上げます。特別展のパネル原稿作成にあたり、敷島製パン様、フロインドリーブ様、常滑市立小鈴谷小学校様には格別なご支援、ご協力をいただきました。改めて厚くお礼申し上げます。今後も倶楽部の中心的な事業として半田赤レンガ建物の価値・魅力を広く告知するために調査研究事業に力を注ぎ、その成果を特別展として皆様方に見て頂きたいと思っています。(馬場記)

## ■NEWS 04

### 第3回 赤煉瓦塾開催

#### ～特別展の解説会・懇親会～

9月22日から10月17日に開催されました2019年特別展の解説会が9月29日の午後実施されました。



この特別展は10月12日～14日に実施されたドイツフェスティバルに合わせ

て馬場理事長らが9か月に渡る調査を行った結果をパネルに整理して展示したものです。パネルには盛田善平の生い立ちから麦酒事業への挑戦、その後の製パン事業と多彩な善平の生涯をまとめた渾身の作でした。更に製パン事業立ち上げ時に勤務したドイツ人パン職人フロインドリーブについても神戸まで足を運び調査した結果が展示されています。

解説会には倶楽部員と半田赤レンガ建物の専任ガイドが参加し、馬場理事長直々の解説に熱心に耳を傾けました。とても中身の濃い解説会でした。

その後はカフェブリックに場所を写して恒例となった懇親会と解説会のおさらいのクイズ、それぞれ軽



食をとりながら楽しく和気あいあいと懇親を深めたのでした。(宮原記)

## NEWS 05

### ほとり酒場へ出店!

10月4(金)・5(土)日 17時~21時、「半田運河の光る夜 HOTORI SAKABA はっこうn i g h t」が半田運河/半六庭園周辺で開催されました。今回は、知多半島の「発酵」を代表するお酒に「光」を当てるというコンセプトで、今年の秋も半田運河のライトアップ、美味しいごはん、カフトビールや知多半島のお酒をお楽しみいただくことができました。(榎原記)

## NEWS 06

### 本格ドイツフェスティバル開催!!



令和元年10月13日・14日に第1回ドイツフェスティバルが開催されました。あいにく台風19号の影響で12日は中止となりました。13日からは台風一過後の日本晴れを期待しましたが、小雨も含むぐずついた天気となり大変心配しましたが、13日開場後大変

多くのお客様が来場され、特にカフェ及び舞台周りには人で溢れかえる活況振りとなりました。14日も同様の状況でした。当初3日間の来場者の目標は15,000人でしたが、結果2日間で11,000人で、天気を考えれば大盛況の2日間でした。

大盛況の原因ですが、第1は10月10日付け中日新聞・愛知県内版に、

また10月14日に知多版に掲載されたことです。第2は、本格・本物のドイツ



にこだわった事だと思います。

過去には春と秋にドイツ祭りが開催されていましたが、アルプス音楽団とドイツのビール・ワインの提供くらいで、おおよそ本格・本物ドイツとはほど遠いイベントと感じていました。明治31年に半田赤レンガ建物が竣工し、明治32年にカフトビールが発売開始されましたが、創業者達はあらゆる面でドイツにこだわりました。建物の基本設計、設備、

技術者、ビール等すべて当時世界で最先端のビール製造技術を持つドイツからまるごと輸入し、本格ドイツビールのカフトビールを造ったのです。そこまでこだわったのは創業者



たちの旺盛な起業家精神によるものだと思います。私たちは、その起業家精神を後世に伝えなければならないと思っています。そのドイツに感謝をし、創業者が造った半田赤レンガ建物、カフトビールの価値・魅力を広く告知するために、

本物・本格ドイツフェスティバルを企画したのです。平成30年12月に半田市、観光協会、半田赤レンガ建物、当倶楽部等でドイツプロジェクトを立ち上げました。



スタート直後はなかなか前へ進みませんが、大きく動いたのは名古屋日独協会がアキタハムで開催したドイツ交流会でした。金武会長、南山大学林田先生、愛知教育大学マイヤー先生と懇親会で意気投合し、ドイツフェスティバルの構想をお話したところ、全面的に支援をされるとお約束いただきました。それが、南山大学の学生によるドイツ語劇、第九シラーの詩の朗読コンクール、マイヤー先生のドイツ文化講座、そして名古屋日独協会に所属している音楽家達の出演へと繋がりました。特にドイツ語劇は歴史があり、過去にはスイスをはじめとする海外

スタート直後はなかなか前へ進みませんが、大きく動いたのは名古屋日独協会がアキタハムで開催したドイツ交流会でした。金武会長、南山大学林田先生、愛知教育大学マイヤー先生と懇親会で意気投合し、ドイツフェスティバルの構想をお話したところ、全面的に支援をされるとお約束いただきました。それが、南山大学の学生によるドイツ語劇、第九シラーの詩の朗読コンクール、マイヤー先生のドイツ文化講座、そして名古屋日独協会に所属している音楽家達の出演へと繋がりました。特にドイツ語劇は歴史があり、過去にはスイスをはじめとする海外



音楽家達の出演へと繋がりました。特にドイツ語劇は歴史があり、過去にはスイスをはじめとする海外

## ■ 定 款 (抄)

### 【法人の名称】

一般社団法人赤煉瓦倶楽部半田

### 【目 的】

当法人は、貴重な旧カプトビール工場の半田赤レンガ建物及び旺盛な起業家精神を顕彰するとともに、後世に引き継ぎ、それを活かしたまちづくりに関する事業を行うとともに、赤煉瓦に関するネットワークと連携し、赤煉瓦を活かしたまちづくりを支援する活動を行い、もって社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする。

### 【会 費】

- (1) 入会金 1,000 円
- (2) 年会費
  - ① 個人会員 2,000 円
  - ② 法人・団体会員 10,000 円  
(団体は 10 名以上)
  - ③ ボランティア会員 無料

### 【活動年度】

毎年 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日

総会は、毎年 1 回開催する

### 【運 営】

当会の運営は理事会で行う。運営にあたり次の役員を置く。

- (1) 理事 5 人以上
- (2) 監事 1 人以上

理事のうち、一人を理事長、2 人を副理事長とする。

### 【事業年度】

毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの年 1 期とする。

### 【年会費振込先】

知多信用金庫本店営業部

普通 0554403

(社)赤煉瓦倶楽部半田

## ■ 編集後記

今号の本来の対象期間は令和元年 8 月～11 月ですが、10 月納屋橋ウォーターマジック、11 月赤煉瓦ネットワーク岸和田×泉州大会は紙面の関係し次号に送りました。理由は、10 月ドイツフェスティバル開催の「目的、内容」に関して詳細に記載したためです。今までも春と秋に「ドイツ祭り」を開催していました。しかし、本格・本物のドイツに関係している建物に相応しいイベントかと言われればかなり物足りない内容でした。当倶楽部は、建物・カプトビールの歴史・魅力を正しく、広く伝えたいと思っており、そのすべてのキーワードが「本格・本物ドイツ」だと思っています。来年もさらに深化したドイツフェスティバルに挑戦しますのでご期待下さい。(NB)

公演もしている本格的なドイツ語劇で、13 日に来



場された方々は、その迫力に息をのみ、終演の際には拍手の大嵐が吹きました。また、神戸のドイツパン老舗「フロ

インドリーブ」のヘラ社長から門外不出商品の販売

の特別許可をいただき、敷島製パンとともに特別販売コーナーを設けたところ大変な活況を呈しました。



2 日間を終

え、「音楽・食・文化どれをとっても本格・本物ドイツ」に徹底的にこだわったことは決して間違いではなかったと思っています。今回が第 1 回目で、打ち上げ花火に終わらせることなく、来年も再来年も……。そして、中部地区で唯一の本格ドイツフェスティバルであり、半田赤レンガ建物はドイツの聖地と言われるくらい、こだわり続けたいと思っています。(馬場記)

## 今後の事業計画

### 【1】2020 新春合宿

■日時:令和 2 年 2 月 15 日(土)

■場所:半田市立住吉公民館

半田市堀崎町 1-30. 電話・FAX. (0569)21-2059

■日程:第一部 事業中間報告並びに

事業計画の検討等

14:30～16:15

第二部 懇親会

16:30～18:30

### 【2】2020 雑まつり

■日時:令和 2 年 2 月 23 日(日)・24 日(月・祝)

2月28 日(金)・29 日(土)、3月1 日(日)

各日 10 時～17 時、3月10 日 15 時迄

■内容:スタンドグラス罐、ガラス罐の展示